

駅伝で鶴翔生走る

2月10日(土),第13回県高等学校新人駅伝競走大会(6区間,32km)が南さつま市であり,29チームが参加しました。結果は惜しくも準優勝でしたが,昨年11月の大会の3位から,順位をあげたので,次の大会ではもう1つ順位をあげて優勝して欲しいですね。



(新人駅伝競走大会を走る鶴翔陸上部)

また,第54回県下一周駅伝大会が,2月17日(土)~21日(水)の5日間行われました。この大会に鶴翔高校10人の生徒が各出身地区の代表として走りました。

- ・松原 康 浩(出水地区・2年・出水中出身)
- ・浦底 孝 行(出水地区・2年・鷹巢中出身)
- ・東福 祐太郎(出水地区・1年・牧園中出身)
- ・山下 真 志(伊佐地区・2年・菱刈中出身)
- ・大迫 晃 聖(伊佐地区・1年・大口中出身)
- ・瀬ノ口 勝 也(川薩地区・2年・高城西中出身)
- ・折田 拓 也(川薩地区・2年・川内南中出身)
- ・松尾 宣 浩(川薩地区・2年・川内南中出身)
- ・古市 聖 崇(川薩地区・2年・川内南中出身)
- ・春山 優 太(大島地区・2年・伊仙中出身)

地区選抜チームに選出

3月17日(土)から2日間,吹上浜海浜公園(南さつま市)で行われる地域選抜ユースサッカー大会に,東畠源志くん(2年・野田中出身)が,北薩地区の代表として選出されました。

東畠くんは,地区の代表として恥じないよう,自分のプレーをしっかりとしたいと,一生懸命練習に頑張っています。



(東畠くん)

ビジネスについて

2月20日(火),総合学科・情報ビジネス系列の2年生を対象に,「ビジネス社会で働くことの楽しさややりがい」と題して,鹿児島国際大学短期大学部の西原誠司教授が講演して下さいました。

普段,ビジネスで役立つことを授業で学んでいる生徒も,違う視点でとらえたビジネスについて知ることができました。今後の授業は今まで以上に,真剣になれそうです。

入試受験人数決まる

2月20日に締め切られた入学願書提出の状況です。学力検査は,3月6日(火)に国語・理科・英語,7日(水)に数学・社会・面接があります。

学 科	実質定員	希望者	倍 率
総合学科	111人	88人	0.79倍
農業科学科	37人	34人	0.92倍
食品技術科	40人	33人	0.83倍

3月の予定

- 2日(金) 阿久根高・阿久根農業高・長島高卒業式参加
- 3日(土) サタゼミ
- 6日(火) 入学者選抜学力検査(~7日)生徒自宅待機(~12日)
- 13日(火) 2年生施設見学
- 14日(水) 1次試験合格発表
1・2年生合同講演会
- 15日(木) 合格者集合
- 22日(木) クラスマッチ
入学者選抜2次試験
- 23日(金) 2次試験合格発表
修了式
- 30日(金) 離任式

編集後記

阿久根・長島地域の「阿久根高校」・「阿久根農業高校」・「長島高校」の3校が今月をもって閉校します。この3校の流れを受け継いだ鶴翔高校も27日(火)には,創立1000日を迎えます。まだまだ歴史の浅い学校ですが,4月からは3期生も入学してきます。今後の鶴翔高校から目が離せません。

鶴翔生だより

鶴翔高等学校

挑戦・感動 そして愛



学校だより「潮の風」vol.2 (第11号 第2面)

〒899-1611 阿久根市赤瀬川 1800

TEL 0996-72-7310 FAX 0996-72-7320

Eメール shinsetsu.hs-a.n@sunny.ocn.ne.jp

URL <http://jns.ixla.jp/users/hhiittoonn513>

「食品技術科」は、阿久根農業高校の食品流通科を受け継ぎます。

阿久根農業高校食品流通科の研究発表を見た後に食品技術科1年生の5人で座談会をしました。

- A 私は特に、「家庭でできるくんせい料理」がよかったと思う。
- B 私も！ベーコンとかロースハム、スモークサーモンなどの「くんせい」ってプロの料理人しか作れないものだと思ってたよね。
- C それが、段ボールとか菜箸とか、身近にある材料から完成させた装置を使って作れるってビックリ！
- D 失敗してもきちんと成功しているところがすごい。
- A 失敗といえば、私たちが作っている3年A組シリーズで、ラベルを貼り忘れたときはゾットした。
- E 鶴翔に入学してから、自分たちが作ったものを買ってもらえるっていううれしさとかやりがいをいっぱい感じてきたけど食品作りに携わる「こわさ」もあるね。
- B お菓子メーカーのずさんさなんて、信じられないよ。
- 一生懸命気を配って心を込めて作っている多くの食品関係者まで同じように見られてしまいそうでショックだよ。
- E 私も2年生になったら「発酵」をメインに学ぶコースに進むのが、いまからもう楽しみだ。
- C 酵母もそうだけど、「目に見えないものの力」が食物に込められているのを感じるよね。これは自分でもすごい発見だった！これから私たちが食べ物の大切さを、いろんな形で伝えていきたいしね。2年生3年生でどんな発見が待っているのかなあ。
- D 研究発表した先輩達には本当に説得力があったよね。私たちも頑張ろう。
- E これからもっと勉強して、新商品も開発したいね。

末廣 恵(川内中央中出身) 吉元 ゆり(高尾野中出身)
松元 はるか(川内中央中出身) 瀧田 志穂(阿久根中出身)
高吉 桃子(阿久根中出身)



(車椅子のまま収穫できる)

私たちも
受け継ぎます
こんな精神
スピリット



(イチゴ苗の定植)

農業科学科は、阿久根農業高校の農業経営科を受け継ぎます

この3月に阿久根農高を卒業する先輩達。その中の農業経営科30人が4班に分かれて取り組んだ課題研究の発表会で、僕たち農業科学科の1年は先輩達のすごさに圧倒されっぱなしだった。

教科書には載っていない独自の研究。例えば、「車椅子に乗った人でも収穫できるイチゴ栽培方法の研究」という発想に、まず感動した。農業=肉体労働という常識がある。でも、農業を仕事にしていた人が障害を負ってしまった場合はもちろん、農業を仕事にしていなかった人にも可能になる農業の世界。それは、高齢化がすすんでいる農家の現状にも役立つような、すばらしい研究だ。レールカーの作成。高い位置で収穫できるモミガラ高設イチゴ栽培のベンチ作成。さらに、年内収穫ができるような苗の処理方法を考え、試行錯誤を重ねてかंबっている先輩達を知って、なんだかとても誇らしく思った。

祖父のやっている畜産を継ぎたくて入学してきた僕が、聴いていて特にわくわくしたのが「繁殖牛の生産と育成についての研究・実践」だった。優れた三つの系統の牛を掛け合わせる研究、そして繁殖能力が高く形質の良い牛を生産・育成する実践だ。

僕は日頃から畜産でがんばっている祖父を見ていて、これからの僕にこんなことができたらなあ、といつも思うことがある。それは、「人工受精師の資格を取ること」と「牛の病気の集団感染を未然に防ぐこと」だ。があれば、生産育成全ての過程を家族の中だけで効率よく計画的にやっていけそう。先輩達の研究発表を見た三週間後、長島の「宮路畜産」を見学したが、まさに僕の目指すことを実践していて、驚いた。コスト削減のためパソコンでデータ管理していたり、労力・時間の軽減のため哺乳ロボットを導入していたりと、親子四人での一貫経営ができるまでにかंबってこられた宮路さんの情熱と努力を尊敬する。

僕はこの一年で、農業の知らなかった世界を知った。それは、こんなふうになりたいと思わせてくれる先生や先輩の姿だったり、学校や見学先で知る高度な設備だったり。そんな中で、この春から二年生になると、もっと深く知ったり、研究もできると思うとうれしい。近い将来、BSEが人間にまで感染してしまうようになるかもしれない。今でも祖父は常に清潔さと、病気の早期発見・早期治療を心がけ、夜の牛舎見回りを欠かさない。そんな祖父を助けられるよう、しっかり勉強していきたい。 依田裕次(1年・農業中出身)